



帰国生の学校選び A to Z

●第8回●

帰国生入試の出願書類に関する諸注意

年が明けると受験シーズンが到来します。そのため年末年始は出願書類の準備や受験勉強の仕上げなどに大忙しとなります。帰国生入試受験生も本帰国したり一時帰国したりして受験に臨みます。

成績証明書はどの学校にも共通して必要な出願書類です。現地校の成績証明書は、国内生や日本人学校生の調査書・内申書に相当しますが、国や州、学校区などによってさまざまな書式や基準があり、国内生や日本人学校生のように点数化して合否判定に使用されることはあまりありません。したがって、GPA(評定平均値)はあまり気にする必要はないでしょう。ただし、現地校の成績証明書は、面接のための参考資料となりますので、良い成績の科目とそうでない科目の理由の説明ができるようにしておく必要があります。

また、英語圏からの帰国生の場合、英語力の高さを期待されることも多く、現地校の成績をその判断材料にされる場合もあります。一方、英語力を証明するために英検の合格証明やTOEFL、TOEICなどのスコア証明の提出を要求する学校もありますが、そうでない学校でも、これらの証明書を提出することで英語力をアピールできます。

推薦書はすべての学校で要求されるわけではありません。推薦書が必要な場合には、現地校や日本人学校での学習状況のみではなく課外活動にも力を入れる必要があります。このような学校は学業成績以外にも優れている生徒を獲得したいと考えているからです。スポーツや音楽、美術、そしてボランティアなどに取り組むことをお勧めします。

補習校の成績証明書や推薦書の提出を求める学校は多くはありませんが、提出した場合には参考資料として利用される機会があります。そこでは日本語での学力や学習意欲、日本の学校での適応力などを評価してもらえましょう。したがって、補習校での学習にも熱心に取り組むことが大切です。

執筆者：丹羽 筆人
(文京学院大学女子中学校 高等学校 北米事務所・アドバイザー)

河合塾での指導経験を経て、米国では補習校・学習塾で帰国生入試受験生を指導。現在はデトロイト補習校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所・アドバイザー。お問い合わせ先：E-mail bunkyo@ujeec.org / Phone & Fax 1-855-926-1140

